

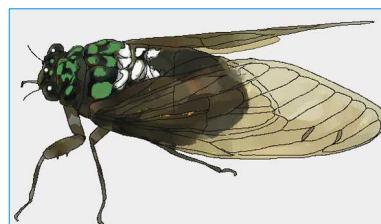


ご 真 言

皆様、当山安住院の宗旨はご存じですね。真言宗です。弘法大師空海和尚が中国から持ち帰られた密教を、日本で弘めるため名付けられました。真言を大切にするので、真言宗なのです。

では、真言とは何でしょう。法事で御看經の時、十三仏のご真言として、呪文のような短いお経があります。平仮名で書いていますが、それにはインドの文字、梵字です。読み難いので仮名にしていますが、それぞれの仏様には、元々は印度の文字、梵字です。お不動様でしたら「のうまくさまんだばざらだんかん」舌を噛みそうな言葉ですが、仏様に感謝の意を表するときに、お唱えするのです。実際少し意味は違いますが、呪文のようなものだと考えて下さっても構いません。「南無観世音菩薩」と言う代わりに「おんあろりきやそわか」とお唱えします。

真言とは仏様の真実の言葉という意味ですが、仏教が生まれたインドの古い言葉をそのまま使つて、仏様に帰依するのです。内容は呪文のようなもので解らなくても、何度もお唱えすることによって、仏様が本当におつしやりたい真実の言葉が、心の中に広がつて来るのです。仏様の言葉なのだと思いますことが大切なのです。

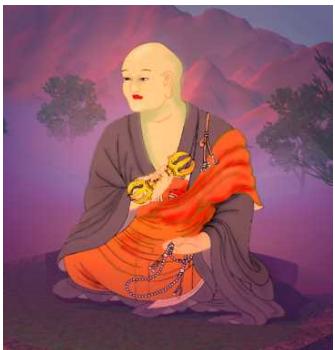


胸の前で静かに両手を合掌し、心の中で仏様を想い、ご真言を声に出してお唱えする。お唱えしている私達と仏様とが一体となり、仏様がおつしやりたいことが体中に広がつて来るのです。ご真言をお唱えするときはいつも、仏様を想うことが重要な事なのです。

お経なんて、覚えられないし、意味も分からぬし、読めないし、眠くなるようなものだ、と思われている方が多いと思います。でも、ご真言でしたら短く繰り返すことが可能です。でも、ご真言でしたら短くお唱えし易く、何度も瞑想といつて、静かに心を静めて精神統一することも大事ですが、なかなか心を無にして、集中することは難しい事です。何か余計な妄想が頭の中を駆けめぐる事が、しばしばでしょう。

それを煩惱と言います。
そこで、静かに座り、両手を合わせ、口でご真言を繰り返し唱えることで、心の中で仏様を想う気持ちが集中でき、全身一体となつて、仏の道を歩むことが可能になるのです。
当院ご本尊千手観音様のご真言は、「おんばざらたらまきりく」です。

弘法大師入唐千二百年



弘法大師・空海上人は、唐（現在の中国）に渡り、惠果和尚から密教の全てをお受けになりました。それは、ちょうど千二百年前になります。当時の唐の都・長安は世界でも有数の文化の中心、有名なシルクロードを通して、とても繁栄していました。そして、お大師さまは最先端の宗教・文化を日本に持ち帰られたのです。今では飛行機で数時間、国内旅行とさほど変わりませんが、千二百年前はどうなものだつたのでしょうか。きっと大冒険で、困難が多かつたことでしょう。

岡山市仏教会主催で、今年も例年通り、八月十六日六時半から、西川の緑道公園アイプラザの前で、灯籠流しを開催致します。

ご先祖様の供養のため、是非お詣りして、灯籠流しにご参加下さい。

灯籠流し

この秋、お大師様が惠果和尚から密教を授けて頂いた、中國西安の青龍寺にて法要も行われます。本山善通寺から参加致しますので、その報告も

千二百年記念行事も数々あり、この秋、お大師様が惠果和尚から密教を授けて頂いた、中國西安の青龍寺にて法要も行

お大師さまの、日本に新しい仏教を伝えたいという素晴らしい熱意が、今の真言宗の基を築くことになったのです。そして現在、中国との文化交流も盛んで、お大師さまの足跡を訪ね、日中両国の文化の発展のため様々な活動が行われています。その一環として、

西国三十三ヶ所靈場巡り

次の予定は、十月七日（木）・八日（金）ですでの、皆様宜しくお願ひ致します。

京都はやはり修学旅行生でいっぱいでしたが、歴史に満ちた古刹が多く、特に真言宗の御本山は素晴らしい風情に佇んで、詳しく案内などもして頂いて、お寺にお詣りしたという実感が多かったのではと観じています。納経だけの参拝ではとかく時間に追われがちですが、余裕をもつた行程で皆さん満足されたことと思います。

